

かけはし

令和5年度

発行 第3号



厚木市教育委員会
社会教育課

モデル研究を経て完全実施へ

木々の緑がキラキラと光り輝く4月28日（金）、推進員の方々に集まっていただき、情報交換会・研修会を行いました。

これまでの2年間のモデル研究が終わり、4月から正式な「厚木市地域学校協働活動推進員規程」のもと、活動が始まっています。

推進員からの
報告・情報

依知南地区内

地域と学校との取り組みの中で一緒に活動した方々を、依知小の応援隊に取り込み、つながりや活動を継続発展させていきたい。（依知小）

フラワーロードの中心者が、保護者であるため順調に回りそう。昼休みに体力向上を狙い、ボランティアの方に関わってもらえるような取り組みを考えていきたい。（依知南小）

夏休みに、子ども同士の交流をメインにした「ふれあい祭り」を計画している。現在地域住民20人ほどの実行委員が集まり、詳細を決めている。これから学校に回って、児童の発表の場が設けられないか詳細を詰めてくる。（北小・藤塚中・上依知小）

自分（推進員）の協力者集めをしようと考えている。学校評価で、気になる数値があったので、そこをCSで検討していきたい。（上依知小）

依知北地区内

1年生の下校ボランティアがスタートしている。体力測定に向けて投げ方教室などを検討したが、ティーボールなどの授業でできないかという意見が出され再検討している。以前から存在していた常置ボランティアグループを「三ツ矢パートナー」に集約する方向で話し合っている。（毛利台小）

南毛利地区内



推進員連絡会の様子

森の里地区内

地域の中に中学生の活動の場を作る取り組みが、コロナで止まっていた。その「ボランティア活動」を復活させていきたい。（森の里中）

年度末に行った、4年生の「陽だまりの家（高齢者の集う場）」訪問は、子どもたちにもお年寄りにもとても好評で、特に児童の「校歌」を聞いたお年寄りが涙を流しながら喜んでいたシーンは印象深かった。（森の里小）

地域学校協働活動の効果は？

今回は「グループワーク」と「研修」を兼ねて、地域学校協働活動の効果について、これまでの経験をもとに、話し合いを行いました。

学習活動を地域で行ったり、その成果を保護者も含めた地域の人々に公開したりすると・・・。

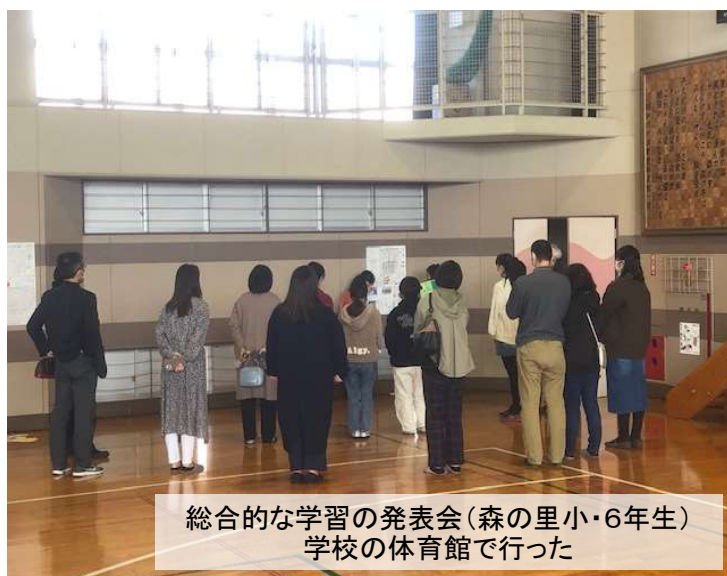
- ・保護者にも地域を知ってもらえる機会となった。
- ・自分の子どもが地域の方に褒められているのを見て、保護者の関心が高くなった。
- ・今まで関りのなかった人と関われるようになり、児童の学習意欲が向上した。
- ・発表会の持ち方にもよるが、聞いてくれる人との距離感が身近になり、満足感が増した。
- ・地域の方や保護者との双方向のやり取りが、子どもたちに今までにない緊張感を持たせることができた。



総合的な学習の発表会
(毛利台小・3年生)
児童館で行った

子どもの学びが地域の人や資源に広がることで

- ・子どもからの案内状や花植え活動に、地域の方がお礼状などを返すなど。交流が深まった。
- ・中学生と地域の方々がグランドゴルフを通じて触れ合い、中学生の笑顔から、世代間交流の大切さがわかった。
- ・世代間交流の際、公民館で眠っていた道具を有効活用することもできてよかった。
- ・お互いに顔を知ること、見守り時などのあいさつなどが、自然にできるようになった。
- ・授業に「地域を取り入れる」先生の意識が変わってきたのではないだろうか。



総合的な学習の発表会(森の里小・6年生)
学校の体育館で行った

イベントで終わってしまうと続かない。持続可能な「地域運営」や「学校運営」を行っていくには、学校運営協議会で、その目的や目標をしっかりと共有していきたいですね。

今後は6月に委嘱式を行い、新しい推進員が9人増え、総計18人になります。
協働活動推進員連絡会は年間3～4回開催し、情報交換を行っていく予定です。
18人の大所帯になり、連絡会は熱気がさらにバージョンアップすること間違いなし！

